



RouteMagic

RouteMagic Server

Cisco LocalDirector プラグイン

ユーザーズガイド

- Version 3.0 -

はじめに

本書の目的

RouteMagic Server (以下 RMS と記述) Cisco LocalDirector プラグインは、従来 Cisco 社のルータ・スイッチのみに提供されていた RMS の機能性を Cisco 社の LocalDirector 製品に対しても提供します。

本書は、RMS Cisco LocalDirector プラグインに関して、その機能と利用方法を記述しています。RMS の機能詳細ならびに操作方法に関しては、下記の関連ドキュメントをご参照ください。

プラグインの動作環境

- RMS : Version3.0 以上
- RMC : Version2.1 以上のソフトウェアおよび Cisco LocalDirector 用カスタムフィルタ / スクリプトを搭載
旧リリースのソフトウェアを搭載した RMC をご利用の場合は、RMC ソフトウェアのアップグレードが必要となりますのでご注意ください。

本書の対象読者

本書は、次の方を対象に記述されています。

- RMS のインストールとシステムの立ち上げの権限をお持ちの方 (root ユーザ)
- RMS の機能と操作に関する知識をお持ちで、Cisco LocalDirector 対応機能をご利用になる方

関連ドキュメント

RMS には本書の他に、次のドキュメントが用意されています。

- **RouteMagic Server ユーザーズ・ガイド - 管理者編 -**
RMS システム、及び RMS を利用するネットワーク管理システムの運用に責任を持つ方を対象として、RMS を利用する際に必要な初期設定と管理作業を記述しています。
- **RouteMagic Server ユーザーズ・ガイド - オペレータ編 -**
ネットワーク管理・監視の担当者として RMS を利用する方を対象として、RMS の機能とその操作に関して記述しています。
- **RouteMagic Server インストール・ガイド**
Linux に関する基礎知識をお持ちの方を対象として、Linux サーバ上への RMS のインストールと初期設定作業に関して記述しています。旧バージョンの RMS からの移行に関して本ドキュメントをご参照下さい。
- **RouteMagic for SNMP Manager ガイド**
SNMP マネージャと RMS を連携させる機能について記述しています。
- **RouteMagic Server リリースノート**
最新リリースにおいて追加 / 変更された機能および利用上の注意事項などを記述しています。

■ **RouteMagic Server メンテナンス・ガイド**

RMS システムを導入されたユーザに必要な日常のメンテナンス作業を記述しています。

目次

1. Cisco LocalDirector プラグインの機能	1
1.1 Cisco LocalDirector プラグイン対応機種	1
1.2 Cisco LocalDirector プラグインの機能	1
1.3 Cisco LocalDirector プラグイン Version3.0 における制限事項	2
2. Cisco LocalDirector プラグインのインストール/アップグレード	3
2.1 Cisco LocalDirector プラグインのインストール/アップグレード	3
2.2 インストールの確認	4
3. 監視対象装置と RMC のセットアップ	5
3.1 Cisco LocalDirector 装置のセットアップ	5
3.2 RMC のセットアップ	5

1. Cisco LocalDirector プラグインの機能

RMS Cisco LocalDirector プラグインは、Cisco 社製の LocalDirector 機器を RMS 対応製品として管理する機能を提供します。RMS の基本的な機能と操作は、従来の RMS 対応製品 (Cisco 社「ルータ」「スイッチ」「IOS スイッチ」)と同様ですので、「RMS ユーザーズガイド」の記述をご参照ください。

Cisco LocalDirector プラグインを利用される場合は、別途、プラグイン用パッケージのインストールが必要とされます。後述のインストール手順に従って、インストール作業を行ってください。

1.1 Cisco LocalDirector プラグイン対応機種

RMS Cisco LocalDirector プラグイン Version3.0 は、Cisco 社の以下の機種に対応しています。

- ◆ LocalDirector シリーズ

1.2 Cisco LocalDirector プラグインの機能

Cisco LocalDirector 対応のパッケージをインストールすることにより、以下の機能が提供されます。

1. 装置種別 “Cisco LocalDirector”の追加

装置の種別として、“Cisco LocalDirector”が追加されます。

2. 装置の自動検出と登録

装置からの情報取得により装置の種別を判断し、自動登録する機能を提供します。この機能を利用するためには、あらかじめ RMC の設定を行っておいてください。RMC の設定に関しては、「3. 監視対象装置と RMC のセットアップ」をご参照ください。



監視対象装置の一括登録を行う場合、「装置登録ファイル」内の装置の種別には、“Cisco LocalDirector”を記述してください。

3. ヘルスチェック機能

“show configuration” (起動時の設定)、“write terminal” (現在の設定)、および“show route” (ルーティング情報)、に対応するヘルスチェック機能により、設定情報とルーティングテーブルの変更履歴を参照することができます。

4. 定石コマンドの提供 定石コマンドの提供

サンプル定石コマンドを RMS CD-ROM 中下記の場所にて提供しています。

¥rmsdocs¥plugin¥samplecmd¥ ciscold.txt

◆ 定石コマンドの登録方法:

RMS にオーナー管理者権限でログイン後、[装置メニュー]-[定石コマンド設定]を選択。「定石コマンドのメニューのアップロード」で上記ファイルを指定。



RMC 上の装置種別は、" cisco-ld" (RMC で set target-type cisco-ld を実行) となります。

1.3 Cisco LocalDirector プラグイン Version3.0 における制限事項

1. コンソールメッセージの重要度判定

RMS Cisco LocalDirector プラグイン Version3.0 では、Cisco LocalDirector 装置のコンソールメッセージの重要度判定をサポートしていません。(「一般機器」と同様の扱いとなります)

2. コンソールメッセージの出力設定

LocalDirector では、コンソールにメッセージを出力する設定が起動の度に無効になります。このため、LocalDirector を起動するたびに設定をやり直す必要があります。

3. トポロジーマップ表示

RMS Cisco LocalDirector プラグイン Version3.0 では、Cisco LocalDirector 装置に対するルーティング情報の自動取得によるトポロジーマップ表示機能をサポートしていません。(「一般機器」と同様の扱いとなります)

4. 装置の自動検出

装置の自動検出を行うには、RMS Ver3.0.1 またはそれ以上のバージョンが必要です。

5. アンインストール

プラグインのみのアンインストールは行えません。

6. 解説メッセージ

解説メッセージは提供されません。

2 . Cisco LocalDirector プラグインのインストール/

Cisco LocalDirector プラグイン機能を利用する際は、以下の手順に従ってインストール/アップグレードを行ってください。

2.1 Cisco LocalDirector プラグインのインストール/アップグレード

1. RMS の動作環境

プラグイン機能の利用には、RMS Version3.0 以上が必要とされます。それ以前のバージョンの RMS をご利用の場合は、「RMS インストールガイド」の記述にしたがって、RMS のアップグレードを行ってください。

2. Cisco LocalDirector プラグインのインストール/アップグレード

以降のインストール/アップグレード作業は、必要なファイルを Cisco LocalDirector プラグイン用 CD-ROM から特定のディレクトリにコピーし、root 権限で実行してください。

root でのログイン

RMS の停止

インストール/アップグレード作業は、下記のコマンドにより RMS を停止してから行います。

```
/etc/init.d/rms stop
```

プラグインのインストール/アップグレード

以下のコマンドを実行し、Cisco LocalDirector プラグインパッケージをインストールします。

(下記コマンドは、インストール/アップグレードされるファイルがカレントディレクトリに存在することを前提に記述しています。)

```
rpm -ivh rms-plugin- ciscold - <バージョン>.i386.rpm
```

なお、アップグレードの際は、以下のコマンドを実行してください。

```
rpm -Uvh rms-plugin- ciscold - <バージョン>.i386.rpm
```

インストール/アップグレードの確認

プラグインが正常にインストール/アップグレードされていることを確認するため、以下のコマンドを実行します。

```
rpm -q rms-plugin- ciscold
```

正常にインストール/アップグレードされている場合は、下記の内容が表示されます。

```
rms-plugin- ciscold -<バージョン>
```

RMS の再起動

以下のコマンドを実行し、RMS を再起動します。

```
etc/init.d/rms start
```

2.2 インストールの確認

RMS の再起動後、プラグインが正常にインストールされたことを確認してください。
Web ブラウザから RMS 管理者の権限で RMS にログインし、「RMS 全体の設定」を参照します。
プラグインが正常にインストールされた場合、ライセンス情報の“インストール済みプラグイン”
に “Cisco LocalDirector” の表示が追加されます。

3. 監視対象装置とRMCのセットアップ

RMS Cisco LocalDirector プラグインを利用される場合は、監視対象とされる装置及び RMC に以下のような動作環境と設定が必要とされます。

3.1 Cisco LocalDirector 装置のセットアップ

Cisco LocalDirector の各装置と RMC とを、装置に添付の RJ-45 ケーブルにて接続してください。標準設定では、各種ログをコンソールに表示しないため、RMC/RMS でログの取得をする際は以下の設定が必要となります。

RMS の監視対象とする Cisco LocalDirector の各装置に対して、以下の例を参考に設定を行ってください。詳細については、Cisco 社の「Cisco LocalDirector システム ログ メッセージ」をご参照ください。

```
enable
configure terminal
syslog console
syslog output 16.severity_level    メッセージのロギングレベル (1~7)
exit
write memory
logout
```



“syslog console”の設定は、LocalDirector の起動の度に無効になります。このため、LocalDirector を起動するたびに“syslog console”の設定を行う必要があります。

3.2 RMC のセットアップ

Cisco LocalDirector 装置を接続する RMC は、下記の動作環境と設定が必要です。

1. RMC の動作環境

プラグイン機能の利用には、RMC ソフトウェア Version2.1 以上が必要とされます。使用されている RMC のソフトウェアバージョンをご確認の上、必要な場合には、RMC ソフトウェアのバージョンアップを行ってください。

2. Cisco LocalDirector 対応のセットアップ

RMS プラグイン機能をご利用いただく場合は、RMC に Cisco LocalDirector 用カスタムフィルタ・スクリプトのセットアップを行う必要があります。

最新の Cisco LocalDirector 用フィルタ/スクリプト（デフォルト設定ファイル）は、ルートレックのホームページからダウンロードしてご利用いただけます。ファイルのダウンロード後、以下の手順により、RMC のセットアップを行ってください。

フィルタ/スクリプトの設定

copy terminal running-config を実行し、上記フィルタ・スクリプトファイルの内容をコピー & ペーストします。RMC に Cisco LocalDirector 用フィルタとスクリプトのデフォルト値が設定されます。

フィルタとスクリプトの定義は、任意に変更することが可能です。設定内容の確認と変更は、set/show target-filter もしくは set/show target-script コマンドによって行います。詳細は、「RMC MP200/MP1200 ユーザーズ・ガイド」、「RMC クイックリファレンス」をご参照ください。

Cisco LocalDirector 接続ポートの設定

Cisco LocalDirector の装置を接続する各 COM ポートに対して下記のコマンドを実行し、必要な情報を設定します。

設定の手順および使用コマンドは、Cisco 製品を接続される場合と同様です。各コマンドの機能と設定情報に関しては、「RMC クイックリファレンス」をご参照ください。

enable	
set port comN	
set target-type cisco-ld	装置の種別を “ Cisco LocalDirector ” に設定
set target-enable-password <パスワード>	装置の特権パスワードを設定
set target-check	装置の生存確認の設定
set network-info-time	ネットワーク情報送信時刻の設定
set connect-log	装置の操作ログを記録
set spy comN tfl0 ml0	comN に適用されるフィルタとスクリプトを指定
write memory	設定内容の保存
target-test comN	生存確認・ネットワーク情報取得のテスト

製品に関するサポートのご案内

製品に関するお問い合わせやテクニカルサポートについては、下記の弊社サポートページをご覧ください。

<http://www.routrek.co.jp/support/>

また、製品に関する最新情報やマニュアルも上記ページからダウンロードすることができますのでご参照ください。

Copyright©2005 株式会社 ルートレック・ネットワークス All rights reserved.
このマニュアルの著作権は、株式会社 ルートレック・ネットワークスが所有しています。
このマニュアルの一部または全部を無断で使用、あるいは複製することはできません。
このマニュアルの内容は、予告なく変更されることがあります。

Copyright©2005 株式会社 ルートレック・ネットワークス All rights reserved.
RouteMagic Server の著作権は、株式会社 ルートレック・ネットワークスが所有しています。
このソフトウェアの一部または全部を無断で使用、あるいは複製することはできません。
このソフトウェアは、使用許諾契約書に記載されている以外の使用はできません。
このソフトウェアの仕様は、予告無く変更されることがあります。

商標について

ルートレック・ネットワークスのロゴおよび RouteMagic は、株式会社 ルートレック・ネットワークスの登録商標です。

本書に記載されている製品名等の固有名詞は、各社の商標または登録商標です。



株式会社ルートレック・ネットワークス
〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本3-5-7 新溝ノロビル
Tel. 044-829-4361 Fax. 044-829-4362